



ル 4  
3403







夫次慶浦と月の名新くく名もきくころに古せん場乃名  
四方きくくより源氏の巻くもは満ありより虫祀し中  
より年光源氏敦盛なるのきくせれたるも葉内乃く先  
らききいひし方よりし書付行

○行平月見松

行平中納言とせのやとりはれなるあひし  
月又の松とせいふと山と又黒く楠葉系所堂あり  
り平松くはゆりの時かこく此意不しよりきぬとけ  
並たまひしきぬけ中川 後ま

○行平きぬけ松

司くくふと少人らく次平の浦より月れはわやこよ  
ありき此浦のみち乃ゆりはと信やらまのいと思ん 光源氏

○磯別松

とくくすはの磯まの松とつみ  
磯テの浦や洪とるを松あへ浪のうぬ目ぞされ 俊頼



○松尾村雨後の井 ぬ井畑村あり

○村雨堂 西原寺の入りはらうひうり海ふうとつる之の女はすほのうくくし月と波ういひり年々

りれやうり松尾村ありしれいふて形えうり村寺あり

○長田社 付来よりれおし一の産るはり長田氏の境内より

○諏訪社 漢多の森より桑田お月お村民黙肉を食する

此二神は山海のきり神とい社と世ふ東南の諏訪といふ

○天神社 月一雲の内より保善天神とも又一夜白髪乃天神

し〜けい〜の浦よりせまひ〜浦人らあつると安てまね〜  
まひ又白髪〜なるゆ〜き信核〜か〜波風のうたふらひ  
おひ〜れりれり〜せたり〜や其時〜里の不友不携幸祐  
ま〜人のおお〜い〜あ〜愛相公の御事〜ま〜い〜  
此〜記〜の〜妻〜

○重樹松 此〜の〜の〜あり〜けい〜十由の〜  
〜の根〜休〜せたり〜あり〜松一株

あり其時里人のあ〜り〜て〜  
〜の〜や〜浪〜と〜城〜を〜む〜社〜

○須石の麓 平家一岩の城廓あり〜  
の尾と〜〜人〜の油〜

た〜い珠簾を〜けい〜樹と〜今も〜た〜を〜  
から〜わ〜



○ 光徳氏の四郎 せせうたより源光寺境内なり

○ 若木ノ榎 次子あり伊予の老目なりはれくはる榎し  
若木の榎目のうみ嘆とて定名のなり一説くうらか  
まのうらみのうみや一説れ

○ 河ノ榎 大宮人の榎一説く榎はこまの榎なり

○ 榎もたうまの若木れをては榎の榎理人

○ 榎もたうまの若木れをては榎の榎理人 定家云

○ 榎もたうまの若木れをては榎の榎理人 大谷

○ 須ノ関 ちきり河の左右の基なり

○ 須ノ関 ちきり河の左右の基なり 兼昌

○ 須ノ関 ちきり河の左右の基なり 行平

○ 須ノ関 ちきり河の左右の基なり 兼昌

○ 須磨寺

高麗僧正と堂物あり一説く縁記なり

上中山編祥云云 須磨寺地あり大八子光徳関山  
室鏡上人和二年の建之敷盛の遺物あり紫の箱

○ 深谷野狐うけ松 赤慶の産産庭なり

○ 葉師堂 頼政の建之正月八日は鬼地なり

○ 稲荷社 けいへん二月己の日社あり地元あり光公の孫の  
稲荷己の日なり一説くせむ

○ 志しきり一説くなりたきてはかきわたり

○ 八百五神もちり思ふ人相するはよとれなけは

○ 八五神もちり思ふ人相するはよとれなけは

○ 村上天皇社

心は改大匠昨夜とて人あり琵琶の連今とて唐渡  
はやとていれは新之今ハ稲荷とみふなり



多小村と天皇御祭の宮女は皇魂海生の海と記してとらぬのふ其  
時降子丸青山中と定む花巻統文よりさけはばはけ新なり

○このり江 今小田地とちりり川の老こ

ありのいひよりける浮草のきやくと人かおりうる

○次の上野 山より入る海を野とすくみ

浪うけぬさむの上野を森ふた野と得る様なり

を此比似雲佐野といふ人唐を志免て位せり

○安徳香内裏

一若二若の宮上は基に四方をそく今小田り  
平家の一門壽永の秋の嵐よまをわけて木の葉も若  
やむの形とちりり小田をさせむいけ次への浦小志をくを居とぬまふ  
ふ小原氏の大指より種ひよりく之のいんおよと葉月十人母生山

田のさしは尾三郎と始して若人七人了若のよてらるが峯ふちがれなり  
つ鐘ははらひしとさう一本を叩きそを落したる運はらへ  
了若の押之岩は落しハ了若の押之

○秩揚が峯

則表や一きのよのき山なり其うま小孫うけ松の  
古木ありひよとくえといはれよりの山つきさうり

○神休峯

西のき山之神切皇居必退治の後魂の神を  
い山一休のいより神休の峯とらふ

○古跡塚

二の若とこの若との宮小田馬守つひまさ城のいぶ  
かうこれのふふあり

○敷巻石塔

この若の西小なりさう一丈際の中端に壽永三年  
二月七日崩城の時いあそ懸若お付まのふま  
年十六才なり州石塔いなる人乃ふ乃とふ志はげ一徳  
の内小速



○ 泉の井

石塔の上れ基あり

○ 熊谷平山

一三のうけと筆ひく揚州増尾村のさうんまを  
生田川と大手と馬場屋と櫛<sup>くし</sup>としてを  
三里除と城とせしと西の宮より次<sup>ついで</sup>の古跡ハ敷多みれ  
と小まなな記とくみそをけせ見ハけすの浦乃  
多<sup>た</sup>の揚<sup>やう</sup>せ<sup>せ</sup>ん<sup>ん</sup>城<sup>じやう</sup>考<sup>かう</sup>つ<sup>つ</sup>人<sup>にん</sup>の<sup>の</sup>あ<sup>あ</sup>記<sup>き</sup>し<sup>し</sup>物<sup>ぶつ</sup>

延享三寅年正月開板

揚州須磨浦一谷角

嘉永二酉年三月再版

産亀堂藏板